

平成28年8月29日(月)
山口県教育庁社会教育・文化財課
教育調整監 岡田淳子

家庭教育支援の推進方策に関する検討委員会における事例発表

(本県の状況)

【取組状況】

少子化や核家族化の進行、地域のつながりの希薄化等により、親が身近な人から子育てを学ぶ機会が減少するなど家庭を取り巻く環境が大きく変化している中、家庭教育支援の充実を図ることが一層重要となっており、4つの柱を立て市町教委と連携しながら施策を総合的に推進している。

○意識啓発・情報提供の推進

「家庭の元気応援キャンペーン」の展開や「啓発リーフレット」の配布、広報テレビ番組「はつらつ山口っ子」の放映

○保護者等への学習機会の提供

PTAや企業等を対象とした「家庭の元気応援出前講座」の開催
(H27実施回数35回 受講者数累計 7,907名)

○地域における相談・支援体制の充実

①地域で活動できる家庭教育アドバイザー等の人材養成

家庭教育アドバイザー養成講座【年8回】

(H27修了者30名 受講者累計290名)

家庭教育アドバイザーステップアップ講座【年4回】

(H27修了者35名)

②家庭教育支援チーム設置促進(H27までの設置状況 6市9チーム)

③県内市町と連携した「訪問型家庭教育支援事業」の実施(国委託事業)

○専門機関による相談・支援の充実

やまぐち総合支援センターに設置している「子どもと親のサポートセンター」での相談・支援活動(H27相談件数 5,672件)

【課題】

○地域における身近な相談・支援体制の更なる充実

○支援が届きにくい孤立しがちな家庭に対し、訪問して直接支援を届ける体制の構築

【今後の対応】

○市町教委と連携した拠点型家庭教育支援チームの全市町への設置促進

○「訪問型家庭教育支援事業」による訪問型支援の実践モデル化とその普及

テーマ：保護者向けの学習機会の質的・量的充実

【取組状況】

○家庭教育応援出前講座の実施

(H27 実施数：35 講座 幼2、小26、中3、団1、企3、受講者 1,220人)

【課題】

- 家庭教育5つのポイント(リーフレット参照)にそったワークショップ型研修によりその場は盛り上がり、保護者同士のコミュニケーションも図れるが、今日的な課題に対する議論の深まりや次の動き(学校や地域、子供たちの活動とのリンクなど)へのつながりが見えない。
- 保護者間同士のつながりだけで完結してしまう。世代が違う保護者とのつながりがもてないか。
- 養成講座を終えた家庭教育アドバイザーや福祉部局の子育て支援サークル等の地域人材の活躍の場の創出

【学習機会の質的・量的充実に向けて】

質的充実

- これまでの5つのポイント以外にワークショップ型講座の中にテーマごとの専門家(SNS、食育、いじめ、基本的な生活習慣等)によるレクチャーやグループの中に子育てを終えた世代の支援者を加え、内容の深みと学校、地域とのつながり感のある講座の開設を支援する。

〔例：広報番組「はつらつ山口っ子」より(光市立浅江中学校)〕

量的充実

- アドバイザー養成講座等でワークショップのファシリテーターとしての講座内容を設け、家庭教育アドバイザーや家庭教育支援チーム等の地域の支援者が、様々な場面で県教委が提供するプログラムを参考に主体的に講座を開設できるよう支援する。

〔例：山陽小野田市家庭教育支援チーム〕